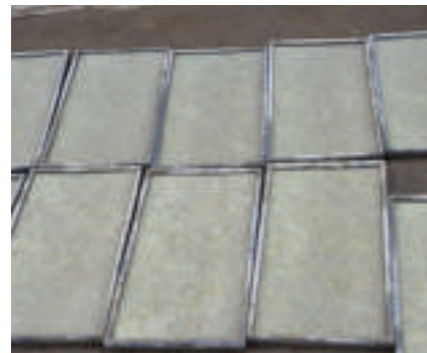


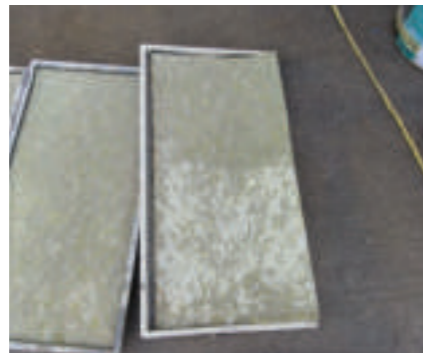
米パワーマットの実用化試験

JAようてい

金子 辰四郎



①最初にシャワーをかけて(手動)散水



②裏面(1.8ℓ)



③最初に粉を撒く



④粉を撒いた後灌水するので水圧が強いと粉がはじかれる



⑤可動シャワーは2列。3列も可(修正が必要)



⑥最後に覆土をかけて完成。重量は2キロくらい軽い

試験目的

米パワーマットの実用化

試験作物 及び品種

水稻

試験資材 及び数量(規格)

米パワーマット(100枚)

慣行資材

土苗

資材使用期間

2月下旬～3月

試験内容

- ①試験枚数:90枚
- ②試験月日:平成24年4月23日
- ③播種時評価
良:培土作業が無い。軽量なため持ち運びやすい。
悪:水2ℓを播種機だけでかけられないため、手間がかかる。粉撒き⇒散水ラインのため水圧を強めると粉がはじかれる。
- ④今後:約一か月間の育苗管理(2日に1回の灌水等)を随時現地にて確認。

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

播種時、培土を作る作業が無いので、作業性は楽。水を2ℓかけることは1度では難しく、一度ホースで水撒きをしてから播種機にかけ、水を撒いた。粉を撒いてから水撒きをしたため、水圧を強めると粉がはじかれることがあったので、調整が必要。マットの方が軽量なため持ち運びが楽。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

葉先が黄色くなり、枯れた苗が多かった。播種時の灌水の後、育苗管理の際に灌水を抑え目で行ったことが原因と思われる。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 軽量なため、持ち運びが楽。

【問題点】: 慣れていないため、灌水の回数・量等の育苗管理が難しい。

モニター感想

播種機で水を2ℓかけるのは難しく、ホース等で一度灌水する、または可動シャワーを改良して2ℓ灌水出来るようにする等の修正が必要。土苗は重量が約5kgあるが、マットは2kg強なので、軽量で作業しやすかった。マットの育苗管理は土苗に比べて難しく、メーカーから言われた通り土苗時の約半分の灌水回数で行った結果、枯れた苗が多くみられたので残念。

JA担当者の感想(逸見専任)

今回の試験では、結果として枯れた苗が多く、改めて灌水の難しさを感じた。モニターではないが、もう一件サンプルで試験を実施したところでは比較的うまく行った。結論としては、灌水については土苗の約半分の回数といった機械的な取進めではなく、日々の天候・苗状況の確認、または生産者の経験により、必要に応じて灌水することが重要であると感じた。

今後の使用について

普及しないと思う。
マットの育苗管理は難しく、また蘭越には育苗センターがあるため、マットの使用には消極的である。

1 クリント

2 高温対策

3 害虫忌避効果

4 滑雪効果

5 生分解性マルチ

6 その他

7 酪農資材